

収録日：2025 年 4 月 18 日

直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」は、群馬県議会議員をお招きし、親しみやすく身近なテーマでお話をするシリーズです。

それぞれの県議の人柄や趣味の話など、幅広く話をしています。議会でのやりとりだけではなかなか見えない部分も、お伝えできると考えています。

第6回目のゲストは、つる舞うの井田泰彦県議です。番組では、子どもの頃から好きだった車にまつわる思い出や、趣味のトレイルランニング、お気に入りの音楽などについて、お話を伺いました。井田県議のアクティブなライフスタイルが伝わる内容となっています。



第6回 井田 泰彦 県議（つる舞う）

山本一太群馬県知事（以下、知事）
群馬県知事の山本一太です。直滑降ストリーム「県議と知事の紅茶懇談」シリーズも、今日で6回目になりました。

このシリーズは、政策を議論する場ではなく、二元民主制の一翼を担う県議会議員の皆さんの人柄がわかるような趣味、人生哲学などのお話をお伺いするものです。

本日は、井田泰彦県議にお越しいただきました。よろしくお願いいたします。

井田泰彦県議（以下、県議）
よろしくお願いいたします。

🍵プロフィール —————
知事 まずは、井田泰彦さんのプロフィールをご紹介します。選挙区は桐生市、会派は「つる舞う」です。良い名前ですね。

県議 「つる舞う形の群馬県」からいただきました。

知事 「つる」がひらがなで、「舞う」に漢字が入っているのがいいなと思って。

県議 この名前を決めるだけで、会派で2時間くらいかかりました。

知事 当選回数3回、出身地が桐生市、旧勢多郡新里村ですね。趣味は、体を動かすこと全般、トレイルランニング、ドライブ、DIYということで、幅広いんですが、後でいろいろ紐解いていきたいと思います。

🍵生い立ち —————
知事 まず、井田さんはどんな子ども時代を過ごしたんでしょう

か。

県議 幼少のときは、冒険というか、探検好きの子どもでした。家の近所にある川を遡って源流まで行こうとか、そういうことばかりやっていましたね。野生児のように育ってきました。

中学校では、ソフトテニス部に入っていました。野球とかサッカーとかは小学校のときにやっていなくて、中学校から始めてもあまり差がつかない部活がないかなと思っていたら、ソフトテニス部があったので。

学校自体も人数が多かった中で、ソフトテニス部も人数が多かったです。

知事 群馬県はソフトテニスが盛んですもんね。

県議 そうですね。当時の勢多郡はみんな強かったんですが、その中では弱いチームでした。

知事 ソフトテニス是一生懸命やられたんですか。

県議 3年間は一生懸命やりましたね。高校に入っても、一応名前にはソフトテニス部に入っていたんですが、ほぼ帰宅部でした。今の自分がその頃の自分に会えたら、もっと頑張っておけと言いたいんですけど。

知事 のびのび育っている感じで、いいじゃないですか。

県議 のびのび育ち過ぎて。高校卒業後に大学に進学しましたが、車が好きで、自動車レースのフォーミュラカーとかF1とかにすごく憧れがあったので、大学を休んで車のことをやりたいって思っちゃったんですよね。

それで休学して、親がそのままじゃ良くないから手に職をつけた方がいいんじゃないかと言ってきて、自動車の整備学校も出ているんですよ。なので、整備士の資格も持っています。

知事 なかなかできない体験ですよな。

県議 親には本当に迷惑をかけたんですが、行かせてもらってありがたかったです。

知事 自動車整備はどうでしたか。車が大好きだったというのはデザインですか、車の仕組みですか。

県議 本来は運転をするのが好きで、そういう世界に憧れて入ったんですけど、メカニカルなところも突き詰めていくとすごく面白いところなので。今でもその時の仲間とは交流もあります。同じ車好きは気が合うので。この頃は楽しかったですね。

知事 この回り道はすごくいいですね。

県議 結局、整備学校を卒業した後に大学に戻るんですけどね。今まで生きてきた話を掘り下げるとそんな話ばかりで、恥ずかしいんですが。

うちの中学校では「立春式」というものがあって、中学2年の時に40歳の自分へのメッセージを書くんです。それで40歳になったら「立志の塔に集う会」というのがあるんですけど、その時に車のレースで成功したいと書いたんですが、2番目の夢が政治家として人の役に立ちたいと、生意気にも思っていて。レースと政治の

世界ということで、自分の中では、今が挫折した次の夢みたいな感じになっています。

知事 大学に入って、きっと親御さんも安心したのに、そこで一旦休学して車の整備学校に入られたわけですが、ご両親がやりたいことをやれ、という感じだったのでしょうか。それとも心配されていたのですか。

県議 仕方ないよね、という感じだと思います。金銭的に大変なところをよく応援してくれたなと思います。

知事 この時はレースで身を立てたかったんですね。

県議 そうです。だけど、中途半端すぎて、この3年間ぐらいは何も成功していないです。勉強にはなりましたけどね。

知事 それで結局大学に戻って、大学も卒業されたということですよな。

県議 そうです。車の世界がダメで、次の夢に真剣に打ち込もうと。政治経済学部だったので、地方自治について突き詰めていこうということで考えが決まったというか。その頃は、本当に悩みながらやっていましたね。

知事 そもそも、どうして政治を志したんですか。立春式で社会の役に立ちたいと書いているわけですよな。

県議 もっと前の段階で考えると、家庭環境もあったかもしれないです。政治が非常に身近というか。親は勤め人だったんですけど、国政選挙は絶対に行くような家庭で。弱い人を助けたいといった

話もよくあるけれども、それは当然の話で。

政治として行政のシステムをマネジメントするというか。地方自治では首長が選挙で変わるけれども、うちは特に村だったので、専門家でもない方がトップになって、ちゃんと組織をコントロールできるのかなとか、生意気にも思ったんでしょうね。今思い返すと。もう少しちゃんと勉強した人がそういう世界に入れば、政治も行政もレベルアップして、ひいては地域の人のためにもっと良いことができるんじゃないかと思ったんでしょうね。

知事 政治の道を志して、大学を出て、まずどういうアプローチで政治に関わったんですか。

県議 卒業後、当時の参議院議員の富岡由紀夫さんという方が、秘書を募集していたんですよ。それで応募して、秘書になったっていうのが入口ですね。

知事 富岡さんは、まっすぐな爽やかな人でしたよね。それで秘書をやって、それからはどういう形で政治家になられたんですか。

県議 2007 年の桐生市議選に出ました。それで、市議を2期務めさせていただいたという感じですね。

知事 市議会議員をやっていると、県議会よりさらに市民に近いですよ。それは今すごく役に立っていますか。

県議 地方自治をやる方は、まずそういうところからやったほうが、市民とも近いし、行政内部でもすごく近いですし、政治家とし

て提案したことが、直に反映されることもあるので、それが本当に糧になっています。

知識とか政策の勉強もそうですが、人脈というか、その時に関わった人が、今でもアイデアをくれたりとか、駄目出しもしてくれたりとか、すごくいいご縁ができていますね。

📖 政治家としての哲学 ———

知事 井田さんの政治哲学をお聞きたいです。市議を2期積み上げてから県議をやられているわけですが、そこで貫いているモットーはありますか。

県議 「公平であるべき」ということですね。政治というと、その人の応援してくれたバックグラウンドで、がらっと変わるじゃないですか。私は知事を見ているとすごく公平だなと。まず、人に対して、全てに対して公平であることが基本だなと思いますね。

それを実現するためには、やっている政策に対して、客観的に見ても正当性を持たせる、評価をしっかりとするということが大事だなと。行革の部分はずっと思っていますね。

📖 趣味 ———

知事 趣味とか、ハマっているものについてお聞きたいです。

県議 最近は走ってばかりですね。

知事 運動がお好きなんですね。

県議 運動が好きっていうか、しないとすごく太るんですよ。

速い人から刺激を受けながら、

ずっと走っていると、良いタイムが出るんですよ。最近は暇さえあれば山の中に入って走ってばかりです。

知事 結構本格的で驚きました。尾瀬の至仏山にも行かれたんですね。

県議 至仏山も、ハイキングがてら妻と登りました。日よけがなくて大変でしたが、楽しかったし、やっぱり風景が綺麗ですよ。

知事 私も軽い筋トレなどをしているので、パッと見ると運動している人などがわかるんですが、井田さんもやはり運動されているんですね。しかもトレイルランは相当すごいですね。

県議 始めてしまえば、できるものですよ。ぜひ知事もエントリーしていただいて（笑）。

自分の中で一番長かったのが、日光国立公園の山の中 40km です。群馬県も良い場所がたくさんあるから、今も大会はたくさんあるんですけど、知事も出るぞとか、お墨付きがある大会を作ってもらったら、みんな励みになると思います。全員が健康になりますから。

知事 トレイルランの魅力は何かですか。

県議 飽きないことですね。マラソンよりも変化があって、上り坂もあれば下り坂もあったり、風景も楽しめたりするところが魅力じゃないかなと思います。

あとは、達成感がありますよね。登り切って、ああ良かったなというのと、下りで爽快感も得られます。それはロードにはないものか

なと思います。

知事 レースをテレビなどで見たこともあるけど、夜も走り続ける場合もあるし、危険と隣り合わせですよ。

やっぱり井田さんはスポーツマンなんだね。体育会系の感じがしますもんね。

🍷好きなエンタメ

知事 音楽とか漫画でも、好きなものがあるということなんですが、教えていただければ。

県議 この辺りは絞り出しました（笑）。

漫画は、子どもの頃 F1 とかに憧れていた流れで、『F（エフ）』っていう漫画が好きです。六田登さんが書いたもので、舞台が群馬県の架空の「赤木村」で。主人公と同級生がともに F1 の世界に上り詰めていく、人とのいろんな葛藤がありながらみたいなのが、自分の中で当時一番影響を受けた漫画かなと思います。

知事 何しろ主人公が「赤木軍馬」だから、明らかに群馬と赤城じゃないかっていう。主人公がお父さんのことを憎んでいて、けど憧れていて、追い抜かなきゃいけないと思っているっていう感じでしたよね。

車を扱った漫画で群馬に関係するものは、『^{【イニシャル】}頭文字D』もありますが、『F（エフ）』もあったのを思い出しました。

音楽も好きなんですか。

県議 邦楽はフジファブリックの『若者のすべて』がすごく染み入ります。洋楽は QUEEN です。

高校のときに、インターネットがない時代で、何かで QUEEN の曲が流れたんですよ。けど QUEEN って分からなくて、レコードショップに行って、洋楽のところをずっと探して、そのアルバムを突き止めたということがありましたね。

知事 渋いってというか、音楽が本当に好きなんじゃないかと思います。フジファブリックって、日本で言うとオルタナロックみたいな感じじゃないですか。『若者のすべて』って歌詞がすごくいいですよ。QUEEN は何が好きですか。

県議 Don't stop me now〜♪ってやつですね。

知事 なんて趣味が良いんだろうと思います。ボヘミアンラプソディーは映画にもなり、超名作ですよ。

映画も、すごく面白かった映画があるって聞きました。

県議 映画は、もう底抜けに楽しい笑えるやつが好きなんで、三谷幸喜さんの作品とかが好きです。『ザ・マジックアワー』とか。

知事 日本映画とは思えない、急展開のコメディだったでしょ。

県議 何かあったときに見ると、嫌なことを忘れて楽しめます。

知事 いいですね。井田さんの意外なところもあったけど、イメージどおりのところもありました。

🍷群馬県の魅力 30 秒 PR

知事 群馬県の魅力を 30 秒で語ってもらいたと思います。

県議 群馬の魅力は、やっぱり都会との近さもありますし、群馬に

住んでいると、自然の豊かさ、そしてそれをしみながら生活・仕事もできるっていう環境の良さだと思います。

私もやっていますけれども、ぜひ身近な山に突入していただいて、体を鍛えて、心も体もリフレッシュして、健康に過ごせる、良い地域です。私はもう楽しんでますんで、ぜひ皆さんも楽しんでいただければと思います。

知事 ありがとうございます。

🍷県議としてやりたいこと

知事 最後に、政治家になってこれだけはやりたいっていうものがあったら教えてください。

県議 無税自治体を目指すということです。松下幸之助さんの「無税国家」の自治体バージョンです。何かやる分を 1 割でも残して、それを投資してお金を増やして、県民に還元するってことをやりたい。知事が今、基金を積み上げているのと同じような感覚かもしれないですけど。

知事 ありがとうございます。本当に面白かった。井田さんはイメージと同じ感じの話が出てきていい感じでした。本当にありがとうございました。

県議 ありがとうございます。